



# Catalyst 3650 スイッチ スタートアップ ガイド

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

- 「このマニュアルについて」 (P.2)
- 「梱包内容」 (P.2)
- 「Express Setup の実行」 (P.3)
- 「スイッチの管理」 (P.8)
- 「スイッチの設置」 (P.12)
- 「AC 電源コードの固定 (任意)」 (P.16)
- 「StackWise ケーブルの接続」 (P.16)
- 「StackWise のケーブル接続方法」 (P.19)
- 「スイッチ ポートへの接続」 (P.19)
- 「トラブルシューティング」 (P.21)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.23)
- 「関連資料」 (P.23)

## このマニュアルについて

このマニュアルでは、Express Setup を使用して Catalyst 3650 スイッチを初めて設定する方法について説明します。また、スイッチ管理オプション、インストレーション、基本的なラックへの設置、スタック構成、ポートとモジュールの接続、トラブルシューティングについても説明します。



**(注)** Catalyst 3650 スイッチの図は特定のカラー スキームを示しているわけではありません。このマニュアルで説明されているさまざまな機能およびマークとして掲載されています。

設置と設定の詳細については、Cisco.com で Catalyst 3650 のマニュアルを参照してください。システム要件、重要な注意事項、制限事項、未修正および修正済みのバグ、マニュアルの更新などについては、Cisco.com で提供されている Catalyst 3650 リリース ノートを参照してください。

オンライン マニュアルの使用時には、スイッチで稼働している Cisco IOS ソフトウェアのバージョンと一致するドキュメントを参照してください。

このマニュアルに記載されている警告の各国語版については、Cisco.com で『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3650 Switch*』をご覧ください。

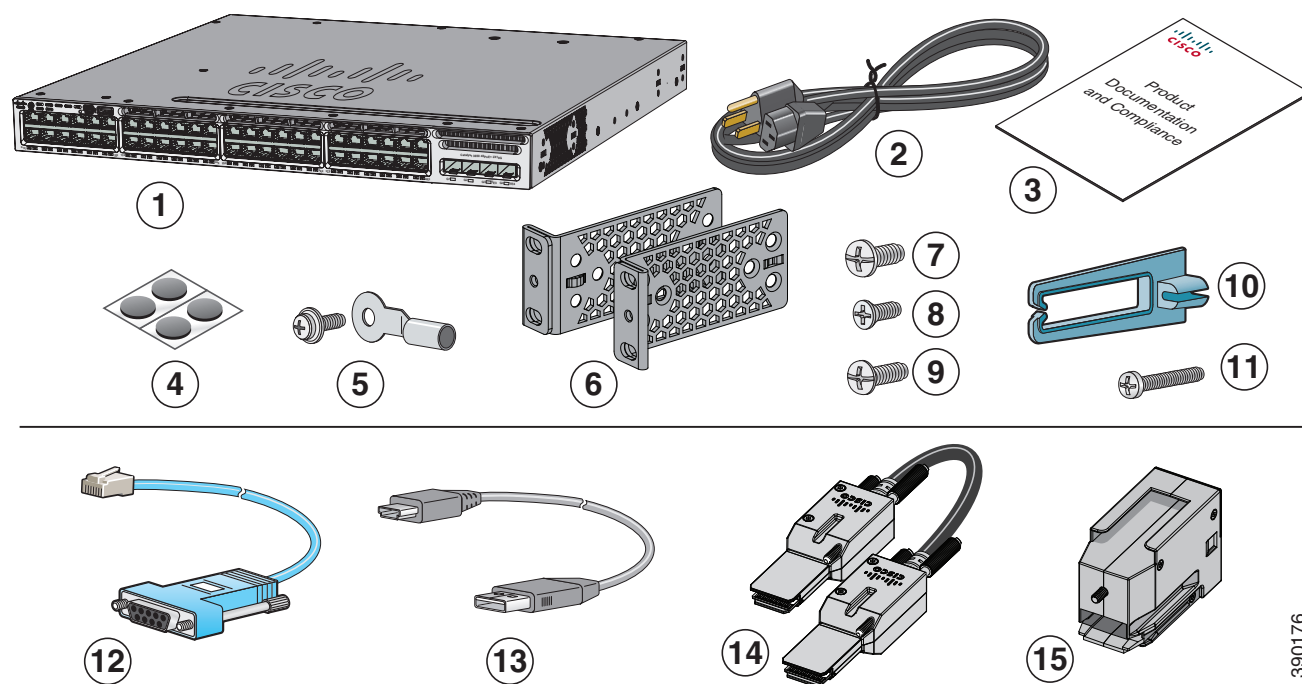
## 梱包内容

出荷ボックスは、[図 1](#) に示すように注文したスイッチ モデルと設置に必要なその他のコンポーネントを含みます。一部のコンポーネントは、注文によって任意選択できます。



**(注)** 次のものがあることを確認します。欠品または損傷品が見つかった場合は、製品の購入代理店まで問い合わせてください。

図 1 出荷ボックスで送付されるコンポーネント



1	Catalyst 3650 <sup>1</sup> スイッチ <sup>2</sup> (電源モジュールとファンモジュールは示されていません) <sup>3</sup>	9	No.8 プラスフラットヘッドネジ X 8
2	(任意) AC 電源コード <sup>2</sup>	10	ケーブルガイド
3	製品マニュアルおよび準拠マニュアル	11	M4.0 x 20mm プラスなベネジ
4	ゴム製の脚 X 4	12	(任意) Cisco RJ-45 コンソールケーブル <sup>2</sup>
5	アースラグ用ネジおよびリングターミナル	13	(任意) USB コンソールケーブル <sup>2</sup>
6	19 インチ用マウントブラケット X 2	14	(任意) Catalyst 3650 スイッチを別の Catalyst 3650 スイッチに接続する StackWise (Stackwise-160) ケーブル (0.5 m、1 m、3 m) <sup>2</sup>
7	No.12 なベネジ X 4	15	(任意) 2 台の StackWise (Stackwise-160) アダプタ <sup>2</sup>
8	No.10 なベネジ X 4		

- ここでは、Catalyst 3650-48PS-L スイッチを示しています。スイッチのモデルによっては外観が異なる場合があります。
- 発注可能です。
- ファンモジュールはスイッチに取り付けられています。電源モジュールはスイッチに取り付けられていません。

## Express Setup の実行

Express Setup を使用して、初期 IP 情報を入力します。この操作によって、スイッチをローカルルーターおよびインターネットに接続できるようになります。その IP アドレスでスイッチにアクセスし、その他の設定を実行できます。



(注) CLI ベースの初期セットアップ プログラムを使用するには、『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』の付録 C「Configuring the Switch with the CLI-Based Setup Program」を参照してください。

ここでは次の機器が必要です。

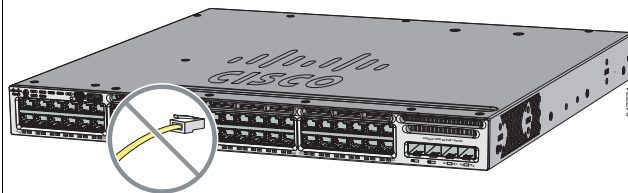
- Windows Vista、XP、または 7 を搭載した PC やラップトップ コンピュータ
- JavaScript を有効にしたブラウザ (Internet Explorer 5.5、6.0、7.0、Firefox 1.5、2.0、3.0)
- ストレート型またはクロス型のカテゴリ 5 イーサネット ケーブル



(注) Express Setup の実行前に、ブラウザのポップアップ ブロックやプロキシ設定、および PC やラップトップ コンピュータで実行しているワイヤレス クライアントをディセーブルにします。

### Express Setup を実行する方法

**ステップ1** スイッチに何も接続されていないことを確認します。



**ステップ2** Express Setup の実行中、スイッチは DHCP サーバとして動作します。PC やラップトップコンピュータに固定 IP アドレスが設定されている場合は、DHCP を使用する前に PC やラップトップ コンピュータの設定を一時的に変更してください。

(注) 静的 IP アドレスを書き留めます。この IP アドレスは、**ステップ 14** で必要になります。

**ステップ3** 電源モジュールを取り付けます。手順については、『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』の「Power Supply Installation」の章を参照してください。

[http://www.cisco.com/go/cat3650\\_hw](http://www.cisco.com/go/cat3650_hw)

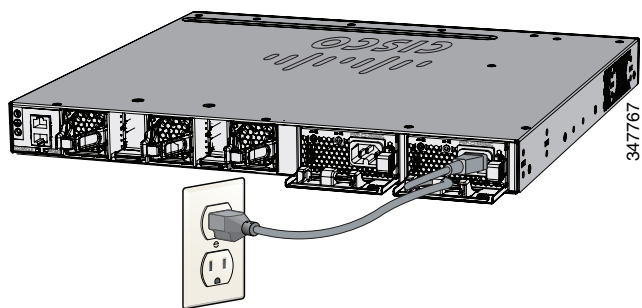
(注) PoE 対応スイッチ モデルの 250 W AC 電源サポートの詳細については、Cisco.com の『*Release Notes for the Cisco Catalyst 3650 Switch*』を参照してください。

**ステップ4** スイッチの電源を入れます。

AC 電源のスイッチ：スイッチの電源モジュールとアース付きの AC 電源コンセントに、AC 電源コードを差し込みます。

DC 電源のスイッチ：Cisco.com で提供されている『Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide』で、接続方法を参照してください。

[http://www.cisco.com/go/cat3650\\_hw](http://www.cisco.com/go/cat3650_hw)

**ステップ5** POST の実行結果を観察します。スイッチに電源を入れてから約 30 秒すると、電源投入時自己診断テスト (POST) が開始されます。POST の完了までには最大 5 分かかります。

POST の実行中は、システム LED が緑で点滅します。POST が完了すると、システム LED が緑の点灯状態になります。スイッチがアクティブスイッチとして動作している場合は ACTV LED が緑で点灯します。

(注) POST が完了するまで待機してから、次の手順に進みます。

**トラブルシューティング：**

SYST LED が緑で点灯しない場合、またはオレンジで点灯する場合は、POST が正常に実行されていません。この場合は、製品の購入代理店まで問い合わせてください。

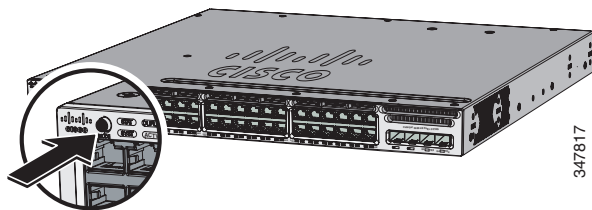
**ステップ6** MODE ボタンの横にあるすべての LED がグリーンに点灯するまで、MODE ボタンを押し続けます

3 秒以上押し続けることが必要な場合があります。

これにより、スイッチは Express Setup モードになります。

**トラブルシューティング：**

MODE ボタンを押すとボタンの横の LED が点滅する場合は、MODE ボタンを放します。LED の点滅は、スイッチがすでに設定されていて、Express Setup モードを開始できないことを意味します。詳細については、「スイッチのリセット」(P.22) を参照してください。



**ステップ7** カテゴリ 5 イーサネット ケーブルをポートに接続します。

- スイッチ前面パネルにあるいずれかの 10/100/1000 ポートまたは 10/100/1000 PoE+ イーサネット ポート
- スイッチ背面パネルにある RJ-45 管理ポート

ケーブルのもう一端を PC やラップトップ コンピュータのイーサネット ポートに接続します。

スイッチと PC またはラップトップ コンピュータのポート LED がグリーンで点灯または点滅するまで待機します。これらの LED が緑で点灯すれば、正常に接続されています。

#### トラブルシューティング：

約 30 秒経過してもポート LED がグリーンにならない場合は、次を確認してください。

- イーサネット ケーブルをダウンリンク スイッチポートのいずれか（コンソール ポートではなく）に接続していること。
- 破損していないカテゴリ 5 またはカテゴリ 6 イーサネット ケーブルを使用していること。
- 他のデバイスがオンになっていること。



**ステップ8** PC またはラップトップ コンピュータでブラウザ セッションを開始し、IP アドレス **https://10.0.0.1** を入力します。要求された場合は、デフォルト パスワード *cisco* を入力します。

**(注)** ユーザー名フィールドのテキストは無視されます。

[Express Setup] ウィンドウが表示されます。

#### トラブルシューティング：

[Express Setup] ウィンドウが表示されない場合は、ブラウザのポップアップ ブロックやプロキシ設定、および PC やラップトップ コンピュータでワイヤレス クライアントがディセーブルになっていることを確認します。

---

**ステップ9** [Network Settings] フィールドに次の情報を入力します。

(注) 情報はすべて英字で入力する必要があります。

- [Management Interface (VLAN ID)] フィールドにデフォルト値の 1 を入力します。

(注) デフォルトの VLAN 値を使用することを推奨します。Express Setup 中は、VLAN 1 がスイッチで唯一の VLAN です。スイッチを管理する管理インターフェイスを変更する場合に限り、新しい VLAN ID を入力します。VLAN ID の範囲は 1 ~ 1001 です。

- [IP Address] フィールドにスイッチの IP アドレスを入力します。
- [Subnet Mask] フィールドのドロップダウン矢印をクリックし、サブネット マスクを選択します。
- [Default Gateway] フィールドに、デフォルト ゲートウェイ (ルータ) の IP アドレスを入力します。
- [Switch Password] フィールドにパスワードを入力します。パスワードは、2 ~ 25 文字の英数字から成り、先頭文字を数字にすることもできます。ここでは大文字と小文字が区別されます。スペースを使用することもできますが、先頭と末尾には使用できません。[Confirm Switch Password] フィールドに、もう一度パスワードを入力します。

(注) デフォルト パスワードの *cisco* を変更する必要があります。

(任意) [Ethernet Management Port Settings] フィールドに次の情報を入力します。

- イーサネット管理ポートの IP アドレスを [IP Address] フィールドに入力します。[IP Subnet Mask] フィールドで下向きの矢印をクリックして、IP サブネット マスクを選択します。

**ステップ10** (任意) [Optional Settings] フィールドで、その他の管理設定を入力できます。[Optional Settings] の情報は、この時点で入力することも、Device Manager インターフェイスを使用して後から入力することもできます。たとえば、オプションの管理設定によって、スイッチを特定および同期し、管理を拡張します。NTP によって、スイッチの時計はネットワーク時計と自動的に同期されます。スイッチに別の時間を設定する場合は、システムクロックを手動で設定できます。

---

**ステップ 11** (任意) Express Setup の [Advanced Settings] タブを選択し、ここで詳細設定を入力するか、Device Manager インターフェイスを使用して後から入力できます。

- コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してスイッチを管理するために Telnet を使用する場合は、[Telnet Access] フィールドで [Enable] をクリックします。Telnet アクセスをイネーブルにしたら、Telnet パスワードを入力する必要があります。
- [Telnet Password] フィールドにパスワードを入力します。Telnet パスワードは、1 ~ 25 文字の英数字から成り、大文字と小文字が識別されます。スペースを使用することもできますが、先頭と末尾には適用できません。[Confirm Telnet Password] フィールドでパスワードをもう一度入力します。
- [SNMP] フィールドで [Enable] をクリックすると、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) がイネーブルになります。SNMP をイネーブルにするのは、Cisco Network Assistant またはその他の SNMP ベースのネットワーク管理システムを使用してスイッチを管理する場合に限ります。
- SNMP をイネーブルにする場合は、[SNMP Read Community] フィールドまたは [SNMP Write Community] フィールド、あるいはその両方にコミュニティ スtring を入力する必要があります。SNMP コミュニティ スtring により、MIB オブジェクトへのアクセスが認証されます。SNMP コミュニティ スtring では、スペースを使用できません。SNMP 読み取りコミュニティを設定すると、SNMP 情報にアクセスできるようになりますが、変更はできません。SNMP 書き込みコミュニティを設定すると、SNMP 情報にアクセスして変更できるようになります。
- [System Contact] フィールドおよび [System Location] フィールドに、連絡先の名前、およびスイッチを設置するワイヤリング クローゼット、フロア、建物を入力します。
- (任意) [Enable IPv6] フィールドで [Enable] をクリックして、スイッチで IPv6 をイネーブルにします。IPv6 フィールドは、デフォルトでイネーブルになっています。

(注) Express Setup の完了時に IPv6 をイネーブルにすると、スイッチが再起動されます。

**ステップ 12** 変更内容を保存し、初期設定を完了するには [Submit] をクリックします。

[Submit] をクリックすると、次のようになります。

- スイッチが設定されて Express Setup モードが終了します。
- ブラウザに警告メッセージが表示されて、スイッチの以前の IP アドレスによる接続が試行されます。多くの場合、設定されたスイッチの IP アドレスと PC やラップトップ コンピュータの IP アドレスのサブネットが異なっていることが原因で、PC やラップトップ コンピュータとスイッチの接続が失われます。

[Express Setup] のフィールドの詳細については、[Express Setup] ウィンドウのオンライン ヘルプを参照してください。

**ステップ 13** スイッチを PC およびラップトップ コンピュータから切り離し、ネットワーク内に設置します。「[スイッチの設置 \(P.12\)](#)」を参照してください。

**ステップ 14** [ステップ 2](#) で PC またはラップトップ コンピュータの静的 IP アドレスを変更した場合は、静的 IP アドレスを以前の設定に戻してください。

**ステップ 15** スイッチの設定と管理については、「[スイッチの管理 \(P.8\)](#)」を参照してください。

## スイッチの管理

Express Setup が完了してスイッチをネットワークに設置したら、次のいずれかの方法を使用して設定を実行できます。

- [Configuration Wizard](#)
- [Device Manager](#)
- [Cisco Network Assistant](#)



- コマンドライン インターフェイス
- その他の管理オプション

## Configuration Wizard

Configuration Wizard は認証サーバを使用して IP アドレス、ローカル ユーザ名、パスワードまたは認証の設定後に最初のワイヤレス設定を完了できるようにする Web ベースのコントローラ ユーザ インターフェイス (UI) です。Web UI を使用して、すべての初期操作のコントローラ、WLAN、ラジオを設定し、管理パラメータを確立する、セキュリティ ポリシーを設定する、ソフトウェア管理コマンドにアクセスする、システム ログおよびその他のタスクを設定することができます。

Configuration Wizard の使い方については、Cisco.com にあるスイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

## Device Manager

スイッチを最も簡単に管理するには、スイッチ メモリの Device Manager を使用します。Device Manager を使用して、スイッチの基本的な設定とモニタリングを実行します。この Web インターフェイスによって、設定とモニタリングをすばやく実行できます。Web ブラウザからアクセスできます。

Device Manager を表示するには、次を行います。

- 
- ステップ 1** PC またはラップトップ コンピュータで Web ブラウザを起動します。
- ステップ 2** 上の **ステップ 9** で割り当てたスイッチの IP アドレス、ユーザ名、およびパスワードを入力し、Enter キーを押します。[Device Manager] ページが表示されます。詳細については、Device Manager のオンライン ヘルプを参照してください。
- 

### トラブルシューティング :

Device Manager が表示されない場合は、次の点を確認します。

- ネットワークに接続されているスイッチ ポートのポート LED がグリーンになっていることを確認します。
- ネットワーク内の既知の Web サーバに接続し、使用している PC やラップトップ コンピュータにネットワーク接続が設定されていることを確認します。ネットワーク接続が設定されていない場合は、PC やラップトップ コンピュータでネットワーク設定のトラブルシューティングを実行してください。
- ブラウザで入力したスイッチの IP アドレスが正しいことを確認します。
- ブラウザで入力したスイッチの IP アドレスが正しく、スイッチ インターフェイスの LED がグリーンになっており、PC やラップトップ コンピュータにネットワーク接続が設定されている場合は、PC やラップトップ コンピュータをスイッチに再接続してから、トラブルシューティングを続行します。スイッチの IP アドレスと同じサブネット内の PC やラップトップ コンピュータで、静的 IP アドレスを設定します。
- PC やラップトップ コンピュータに接続されているスイッチ ポートの LED がグリーンの場合は、ブラウザでスイッチの IP アドレスを再入力し、Device Manager を表示します。Device Manager が表示されたら、設定を続行します。

## Cisco Network Assistant

Cisco Network Assistant は、Cisco.com からダウンロードして PC またはラップトップ コンピュータ上で実行するソフトウェア プログラムです。スイッチ、スイッチ クラスター、スイッチ スタック、ルータ、アクセス ポイントなど、複数のデバイスの設定とモニタリングを行う詳細オプションが提供されます。Network Assistant は無料であり、ダウンロード、インストール、使用にいったい料金は発生しません。

Cisco Network Assistant を使用するには、次を行います。

**ステップ 1** Web アドレス <http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/index.html> に移動します。



(注) これには Cisco.com への登録が必要です (これ以外に必要なアクセス権限はありません)。

**ステップ 2** [Download Software] リンクをクリックして、ダウンロードするバージョンを選択します。

**ステップ 3** Cisco Network Assistant インストーラを検索します。

**ステップ 4** Cisco Network Assistant のインストーラをダウンロードし、実行します (ブラウザによっては Web サイトから直接実行することもできます)。

**ステップ 5** 指示に従ってインストーラを実行します。最終画面で [Finish] をクリックします。

詳細については、Cisco Network Assistant のオンライン ヘルプおよび『Cisco Network Assistant Getting Started Guide』を参照してください。

## コマンドライン インターフェイス

次のいずれかのオプションを使用して、CLI から Cisco IOS のコマンドとパラメータを入力できます。

- [USB コンソール ポート](#)
- [RJ-45 コンソール ポート](#)
- [イーサネット管理ポート](#)



(注) RJ-45 コンソール ポートと USB コンソール ポートを同時に使用することはできません。USB コンソール ポートと RJ-45 コンソール ポートの両方に接続している場合は、USB コンソール ポートが優先して機能します。

## USB コンソール ポート



(注) スイッチの USB コンソール ポートに Microsoft Windows ベースの PC またはラップトップ コンピュータを接続する場合は、最初に接続する前に、USB デバイス ドライバをインストールします。手順については、『Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide』を参照してください。

- 
- ステップ 1** USB ケーブルを PC またはラップトップ コンピュータの USB ポートに接続します。ケーブルの另一端をスイッチの前面パネルのミニ B (5 ピン コネクタ) USB ポートに接続します。
  - ステップ 2** PC またはラップトップ コンピュータで、端末エミュレーションプログラムを起動します。
  - ステップ 3** PC またはラップトップ コンピュータの端末エミュレーション ソフトウェアを、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップ ビット、フロー制御なしに設定します。
  - ステップ 4** CLI を使用してスイッチを設定します。『*Catalyst 3650 Switch Software Configuration Guide*』および『*Catalyst 3650 Switch Command Reference*』を参照してください。
- 

## RJ-45 コンソール ポート

- 
- ステップ 1** RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを PC またはラップトップ コンピュータの 9 ピン シリアル ポートに接続します。ケーブルの他方の端を、スイッチの背面パネルにあるコンソール ポートに接続します。
  - ステップ 2** PC またはラップトップ コンピュータで、端末エミュレーションプログラムを起動します。
  - ステップ 3** PC またはラップトップ コンピュータの端末エミュレーション ソフトウェアを、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップ ビット、フロー制御なしに設定します。
  - ステップ 4** CLI を使用してスイッチを設定します。『*Catalyst 3650 Switch Software Configuration Guide*』および『*Catalyst 3650 Switch Command Reference*』を参照してください。
- 

## イーサネット管理ポート

- 
- ステップ 1** カテゴリ 5 イーサネット ケーブルを PC またはラップトップ コンピュータのイーサネット ポートに接続します。ケーブルの另一端をスイッチの背面パネルの管理ポートに接続します。
  - ステップ 2** PC またはラップトップ コンピュータで Telnet セッションを開始します。
  - ステップ 3** Express Setup を使用して割り当てたスイッチの IP アドレスを入力します。
  - ステップ 4** CLI を使用してスイッチを設定します。『*Catalyst 3650 Switch Software Configuration Guide*』および『*Catalyst 3650 Switch Command Reference*』を参照してください。
- 

## その他の管理オプション

Cisco Prime Infrastructure は、Cisco Prime Network Control System (NCS) のワイヤレス機能および Cisco Prime LAN Management Solution (LMS) の有線機能を、Cisco Prime Assurance Manager のアプリケーション パフォーマンス モニタリングおよびトラブルシューティングの機能と組み合わせます。詳細については、Cisco.com で Cisco Prime Infrastructure のドキュメントを参照してください。

サポート ドキュメンテーションについては、「ヘルプへのオンラインアクセス」(P.23) を参照してください。

## スイッチの設置

ここでは、基本的な 19 インチ ラックへの設置について説明します。オプションで用意されている他のブラケットの詳細については、『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』を参照してください。ここで掲げる図では、Catalyst 3650-48PS-L スイッチを示しています。他の Catalyst 3650 スイッチでも、同様の方法で取り付けと接続が可能です。

### 必要な装置

- スイッチをラックに設置するためのプラス ドライバ
- StackWise (Stackwise-160) アダプタを接続するためにスタック キット (または Torx T15 ドライバ) と共に出荷された Torx T15 アレンキー

### はじめる前に

スイッチを設置する前に、次の注意事項が守られていることを確認してください。

- 前面パネルの LED を読み取れるようにスペースが確保されている。
- AC 電源コンセントから背面パネルのコネクタまで、AC 電源コードが届くこと。
- スイッチの背面パネルには、4.4 in のスペースがあります。(11.1 cm)



(注)

PoE 対応スイッチ モデルの 250 W AC 電源サポートの詳細については、Cisco.com で『Release Notes for the Cisco Catalyst 3650 Switch』を参照してください。

- 取り付けると、1025 W 電源モジュールはスイッチの背面より長くなります。電源モジュールを取り付ける前に、次のことを確認してください。
  - 取り付ける前に、スイッチがラックに搭載されていること。
  - 拡張された電源モジュールのために、スイッチの背後に十分なスペースがあること。
- ケーブルがラジオ、電線、蛍光灯などの電気ノイズ源から離れていること。ケーブルは、損傷を与える可能性のある装置から必ず十分に離してください。必要に応じて、装置間に 1 RU 分の空間を確保し、ケーブル配線が容易になるようにします。
- スイッチの周囲や通気口のエアフローが妨げられないこと。
- スイッチが動作している環境がサポート範囲内であること。



(注)

スイッチの動作環境条件についての詳細は、『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』の技術仕様を参照してください。

- 装置周辺の温度が 113 °F (45 °C) を超えないこと。密閉式ラックまたはマルチラック アセンブリにスイッチを設置すると、温度が通常の室温よりも高くなる場合があります。
- 動作中に結露しないように、または動作していない時は周辺湿度が 96% を超えないこと。
- 設置場所の標高が 5000 m (16,400 フィート) を下回っていること。
- 10/100/1000 固定ポートの場合、スイッチから接続先装置までのケーブル長は 328 フィート (100 m) 以内であること。

- ファンやブロワーなどの冷却機構は、埃やその他の粒子が吸い込まれ、シャーシ内に汚れが蓄積し、システムの故障の原因となることがあります。できるだけ埃や導電性の異物（工事作業などによる金属薄片など）のない環境に設置してください。

## 設置に関する警告事項

警告の各国語版は、『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3650 Switch*』に記載されています。このドキュメントは Cisco.com から入手できます。



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

システムの過熱を防止するために、周囲温度が次の推奨最高値を超える場所では使用しないでください。推奨最高温度：  
113 °F (45 °C) ステートメント 1047



警告

スイッチ内部にはユーザが保守できる部品はありません。筐体を開けないでください。ステートメント 1073



警告

通気の妨げにならないように、通気口の周囲に少なくとも次の隙間を確保してください。  
3 インチ (7.6 cm) ステートメント 1076



(注)

この製品のアースアーキテクチャは DC 絶縁 (DC-I) 方式です。



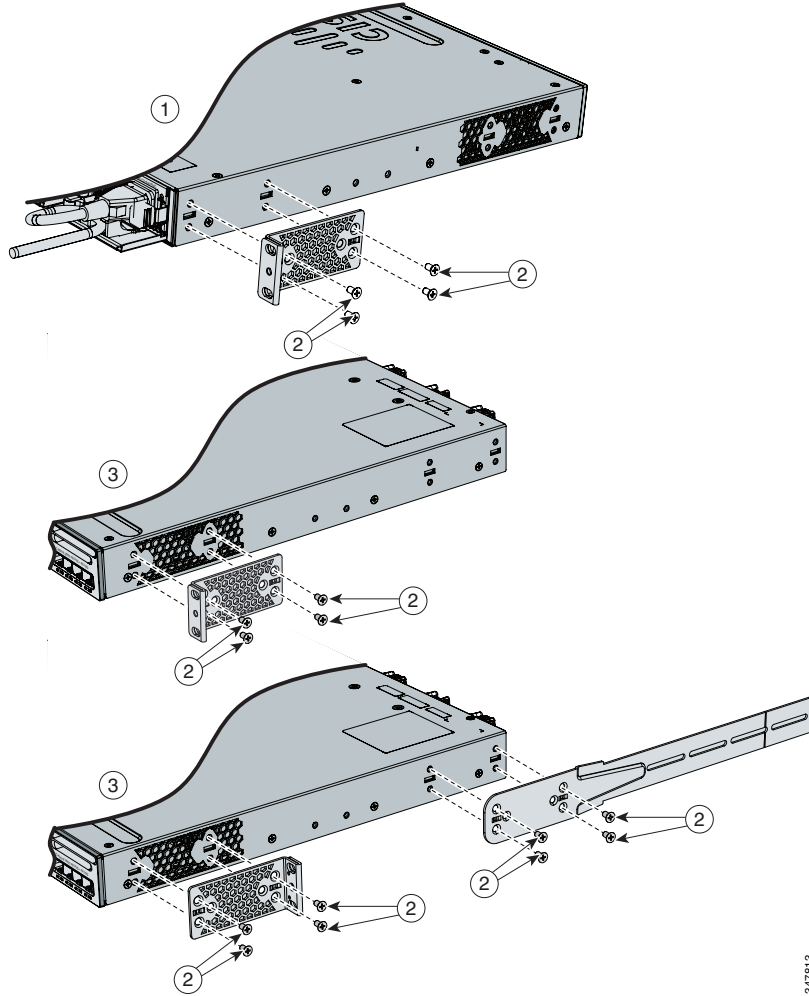
(注)

PoE 対応スイッチモデルの 250 W AC 電源サポートの詳細については、Cisco.com で『*Release Notes for the Cisco Catalyst 3650 Switch*』を参照してください。

## ブラケットの取り付け

No. 8 プラス フラットヘッド ネジを 4 本使用して、スイッチの次の取り付け位置のいずれかに各ブラケットの長手方向を取り付けます。

図 2 スイッチへのブラケットの取り付け



347813

1	リアマウントの位置	3	フロントマウントの位置
2	No.8 フラットヘッド ネジ		

## スイッチのラックへの設置

4本の No. 12 小ネジを使用して、ブラケットをラックに取り付けます。黒の小ネジを使用して、左右いずれかのブラケットにケーブルガイドを取り付けます。



警告

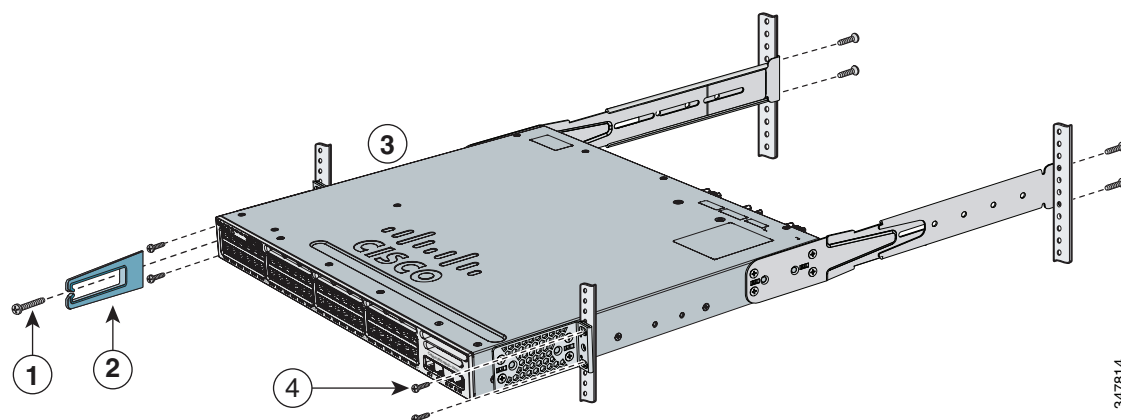
ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。ステートメント 1006

図 3 ラックへのブラケットの取り付け



347814

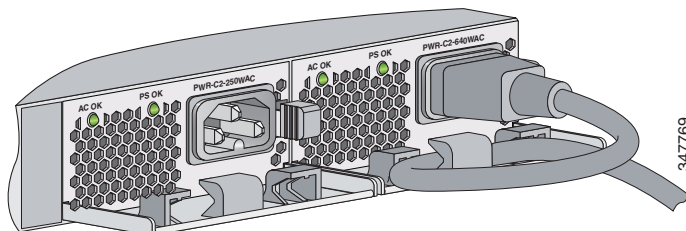
1	小ネジ、ブラック	3	フロントマウントの位置
2	ケーブルガイド	4	No. 12 または No. 10 の小ネジ

電源モジュールを必要に応じて取り付けます。

## AC 電源コードの固定 (任意)

電源コードをループ状にして、電源コード保持具に通します。電源コードを電源モジュールに接続します。

図 4 AC 電源コードの固定



## StackWise ケーブルの接続

その他の Catalyst 3650 スイッチと Catalyst 3650 スイッチをスタックできます。StackWise ケーブルを接続する前に、『Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide』の「Planning a Switch Data Stack」を参照してください。スイッチ同士の接続には、必ずシスコ認定の StackWise ケーブルを使用してください。



### 注意

StackWise ケーブルの取り外しや取り付けを行うと、ケーブルの耐用期間が短くなる場合があります。絶対に必要な場合を除き、ケーブルの頻繁な取り外しと取り付けは避けてください（このケーブルでサポートされている取り外しと取り付けの最大回数は 200 回です）。

- ステップ 1** StackWise ケーブルからダスト カバーを取り外し、後で使用できるように保管しておきます。
- スタック構成をイネーブルにするには、StackWise ポートに StackWise アダプタを取り付ける必要があります。デフォルト設定では、StackWise ポートに StackWise アダプタ ブランクが取り付けられています。StackWise スタック構成をスイッチと一緒に注文した場合、StackWise アダプタは StackWise ポートにすでに取り付けられており、手順 4 に進むことができます。
- ステップ 2** 図 5 に示すように、スタック構成キット（または Torx T15 ドライバ）で提供される Torx T15 アレンキーを使用してアダプタ ブランクのネジを緩めて、目的の StackWise ポートから StackWise アダプタ ブランクを取り外します。後で使用できるように保管しておきます。
- ステップ 3** 図 6 に示すように、StackWise アダプタを目的の StackWise ポートに取り付け、提供された Torx T15 キーまたは Torx T15 ドライバを使用して固定します。



**(注)** StackWise アダプタの取り外しまたは取り付け前に、ファン モジュールを取り外す必要はありません。システムの電源がオンのときに取り付けの場合は、ファンは常に取り付けられた場所のまま動かさない必要があります。

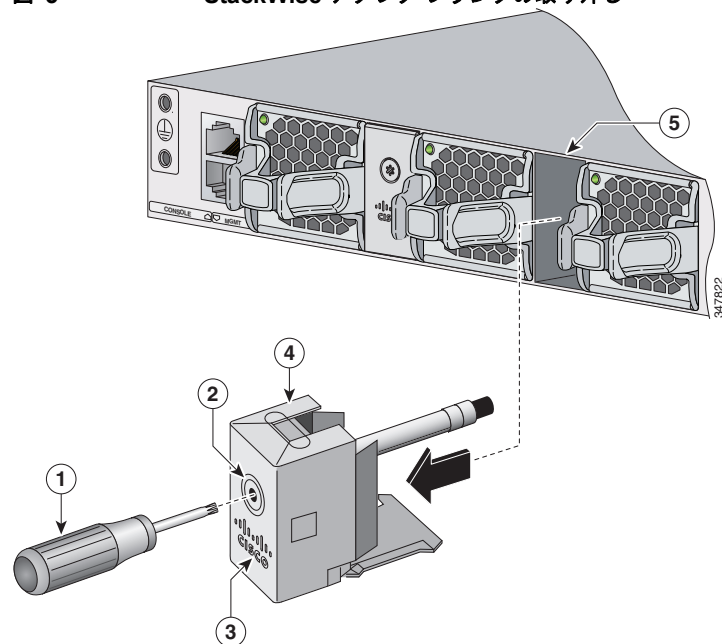
- ステップ 4** StackWise ケーブルをスイッチの背面パネルの StackWise ポートに接続します。
- a. StackWise ポートの StackWise アダプタと StackWise ケーブル コネクタの位置を合わせます。



- b. ケーブルコネクタを [図 7](#) に示すように、StackWise ポートに StackWise ケーブルを接続するために挿入します。シスコのロゴがコネクタの上面にあることを確認します。
- c. ネジ（時計回り）を指で締めます。

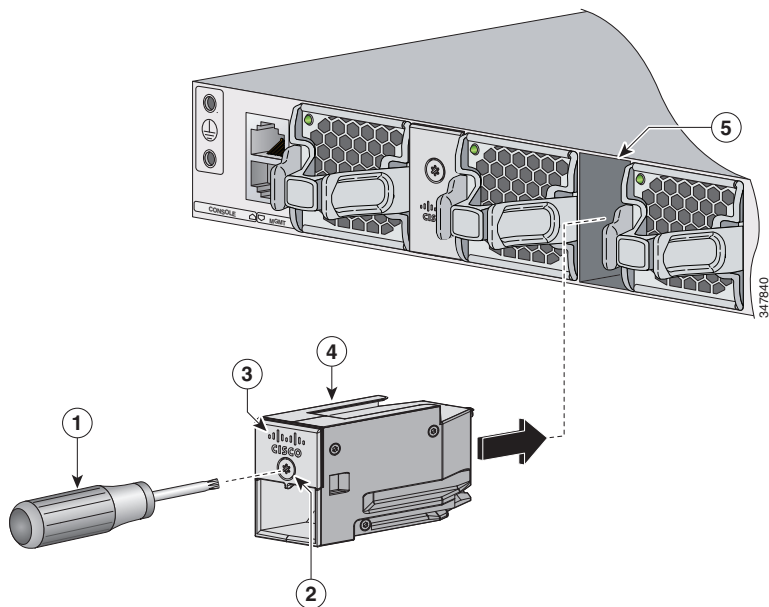
**ステップ 5** ケーブルのもう一端を他のスイッチのポートに接続し、指でネジを締め付けます。締めすぎないように注意してください。

**図 5** StackWise アダプタ ブランクの取り外し



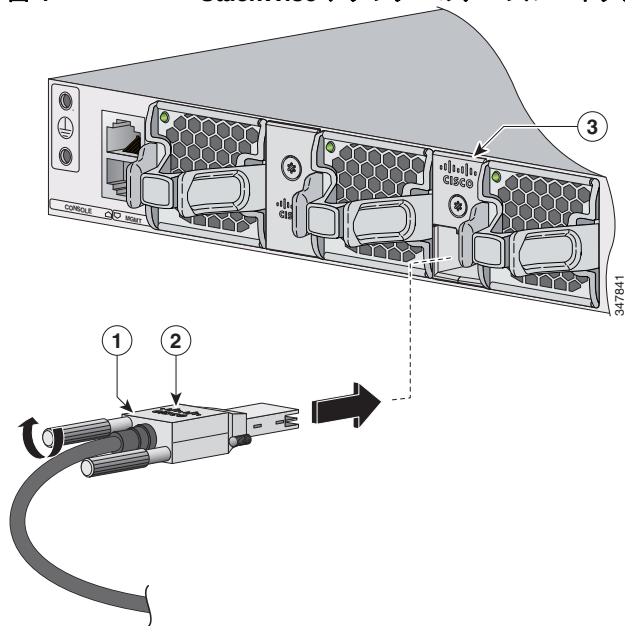
1	Torx T15 ドライバ	4	StackWise アダプタ ブランク
2	アセンブリのネジ	5	StackWise ポート
3	シスコ ロゴ		

図 6 StackWise ポートへの StackWise アダプタの取り付け



1	Torx T15 ドライバ	4	StackWise アダプタ
2	アセンブリのネジ	5	StackWise ポート
3	シスコ ロゴ		

図 7 StackWise アダプタへのケーブルコネクタの挿入



1	StackWise ケーブル	3	StackWise ポートに取り付けられた StackWise アダプタ
2	シスコ ロゴ		

コネクタから StackWise ケーブルを取り外す必要がある場合は、接続しているネジを完全に外します。コネクタを使用しない場合は、ダスト カバーを取り替えてください。



(注) StackWise ケーブルを取り外しにくい場合は、ケーブル ネジを取り外すのにマイナス ドライバを使用できます。ドライバはケーブルの取り外しにのみ使用でき、ケーブルの取り付けに使用する場合は滑り落ちるように設計されています。

## StackWise のケーブル接続方法

Catalyst 3650 スイッチは、他の Catalyst 3650 スイッチとスタックできます。



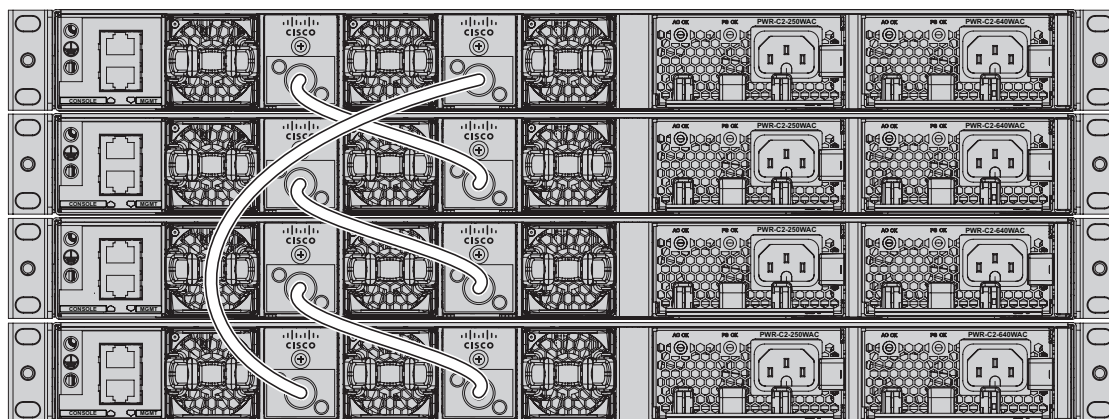
(注) Catalyst 3850 スイッチおよび Catalyst 3650 スイッチの混在するスイッチ スタックは構成できません。

次の図は、0.5 m の StackWise ケーブルを使用して接続する、推奨される構成を示しています。

その他の構成例については、Cisco.com で提供されている『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』を参照してください。

[http://www.cisco.com/go/cat3650\\_hw](http://www.cisco.com/go/cat3650_hw)

図 8 StackWise ケーブル配線の設定例



347682

## スイッチ ポートへの接続

### 10/100/1000 ポートまたは 10/100/1000 PoE+ ポート

サーバ、ワーク ステーション、IP フォン、ワイヤレス アクセス ポイント、ルータに接続する場合は、次を行います。

- カテゴリ 5 の 4 ツイストペアのストレート ケーブルを 10/100/1000 ポートに使用します。
- また、別のスイッチ、ハブ、リピータに接続する場合は、カテゴリ 5 の 4 ツイストペア クロス ケーブルを使用します。

- 別のデバイスの RJ-45 ポートにケーブルのもう一端を接続します。

スイッチのモデルによっては、10/100/1000 ポートで Power over Ethernet (PoE) と PoE+ をサポートしています。

- IEEE 802.3af 準拠の受電デバイスの PoE に対するサポート (最大 15.4 W)
- IEEE 802.3at 準拠の受電デバイスの PoE+ に対するサポート (最大 30 W)

詳細については、Cisco.com で提供されている『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』を参照してください。

[http://www.cisco.com/go/cat3650\\_hw](http://www.cisco.com/go/cat3650_hw)



(注)

Automatic Medium-Dependent Interface crossover (Auto-MDIX) 機能はデフォルトでイネーブルになっています。スイッチは銅線イーサネット接続に必要なケーブルタイプを検知し、インターフェイスを設定します。接続先の装置のタイプにかかわらず、スイッチの銅線 10/100/1000 モジュールポートには、クロスケーブルまたはストレートケーブルのどちらでも使用できます。

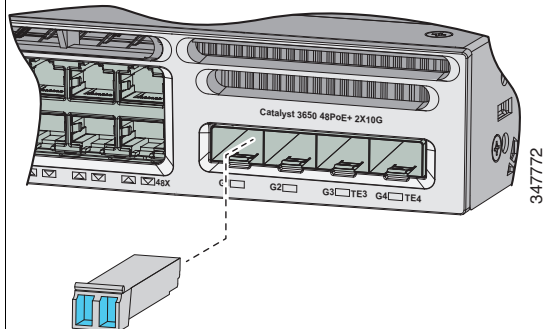
## SFP および SFP+ トランシーバ モジュール ポート

スイッチには、シスコ製 SFP トランシーバ モジュールだけを使用してください。サポートされるモジュールのリストについては、『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』を参照してください。SFP トランシーバ モジュールの取り付け、取り外し、接続についての詳細は、SFP および SFP+ トランシーバ モジュールのマニュアルを参照してください。

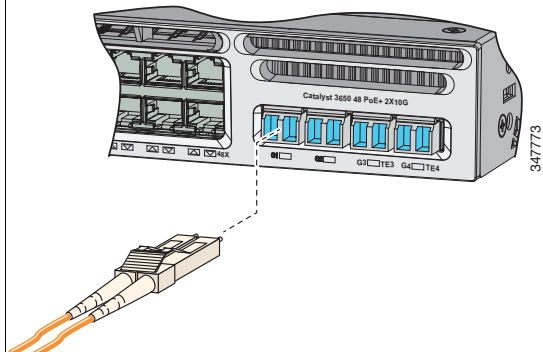
**ステップ1** SFP トランシーバ モジュールの両側を持って、スイッチの SPF モジュール スロットに挿入し、コネクタがスロットの奥に装着された感触があるまで挿入します。



**(注)** 使用するスイッチのモデルによって 4 個の SFP モジュール スロットは、すべて 1 ギガビット SFP モジュール スロットまたはすべて 10 ギガビット SFP+ モジュール スロットになります。また、左側の SFP モジュール スロット ペアと右側の SFP+ モジュール スロット ペアの組み合わせになります。SFP+ モジュール スロットでは、SFP モジュールと SFP+ モジュールの両方がサポートされます。



**ステップ2** 適切なケーブルをモジュールのポートに接続します。



**ステップ3** ケーブルのもう一端を別のデバイスに接続します。

## ポート接続の確認

装置をスイッチのポートに接続すると、スイッチがリンクを確立する約 30 秒間、ポート LED はオレンジに点灯します。スイッチと接続先装置がリンクを確立すると、LED は緑に点灯します。LED が消灯している場合、装置が起動されていない可能性や、ケーブル、またはデバイスに取り付けられたアダプタに問題がある可能性があります。

## トラブルシューティング

ここでは、Express Setup のトラブルシューティング、スイッチのリセット方法、ヘルプにオンラインでアクセスする方法、詳細情報の検索方法について説明します。

## Express Setup

Express Setup を実行できない場合、または Express Setup のページがブラウザに表示されない場合は、次の指示に従ってください。

チェックリスト	推奨事項
Express Setup の起動前に POST が正常に実行されたことを確認しましたか。	正常に実行されていない場合は、SYST LED と ACTV LED のみが緑に点灯していることを確認してから、MODE ボタンを押して Express Setup モードを開始してください。  POST エラーは通常、修復不可能です。スイッチが POST にパスしなかった場合は、シスコのテクニカル サポート担当者までお問い合わせください。
スイッチが POST を実行している間に MODE ボタンを押しましたか。	その場合は、POST が完了するまで待機します。スイッチの電源を再投入します。POST が完了するまで待機します。SYST LED と ACTV LED が緑で点灯していることを確認します。MODE ボタンを押して Express Setup モードを開始します。
スイッチが Express Setup モードになったことを確認せずに作業を続けようとしたか。	MODE ボタンの横にあるすべての LED がグリーンに点灯していることを確認します。そのように点灯していない場合は、MODE ボタンを押したままにして Express Setup モードを開始します。
PC やラップトップ コンピュータに固定 IP アドレスが設定されていますか。	PC やラップトップ コンピュータに固定 IP アドレスが設定されている場合、PC を一時的に DHCP を使用する設定に変更してからスイッチに接続します。
スイッチの 10/100/1000 イーサネットポートまたは管理ポートの代わりに、コンソールポートにイーサネットケーブルを接続しましたか。	その場合は、コンソールポートからケーブルを取り外します。スイッチのイーサネットポートにケーブルを接続します。30 秒間待ってからブラウザに <b>10.0.0.1</b> と入力してください。
スイッチと PC またはラップトップ コンピュータを接続した後、30 秒待機してからブラウザに IP アドレスを入力しましたか。	そのように操作していない場合は 30 秒待機し、ブラウザに <b>10.0.0.1</b> と再度入力して Enter キーを押します。
誤ったアドレスをブラウザに入力したか、エラーメッセージが表示されますか。	該当する場合は、ブラウザに <b>10.0.0.1</b> と再度入力して Enter キーを押します。

## スイッチのリセット



**注意**

スイッチをリセットするとスイッチが再起動します。

スイッチを出荷時の初期状態にリセットには、次を行います。

- ステップ 1** MODE ボタンを押し続けます。約 3 秒後にスイッチの LED が点滅し始めます。
- ステップ 2** そのまま MODE ボタンを押し続けます。7 秒経過すると LED の点滅が停止し、スイッチが再起動されます。

- ステップ 3** これで、このスイッチは未設定のスイッチと同様に動作するようになります。「Express Setup の実行」(P.3) で説明したように、Express Setup を使用してスイッチの IP 情報を入力できます。
- 

## ヘルプへのオンライン アクセス

Cisco.com で提供されている『*Catalyst 3650 Switch Hardware Installation Guide*』または『*Catalyst 3650 Switch Software Configuration Guide*』のトラブルシューティング セクションで、問題の解決方法を探します。シスコの Technical Support and Documentation Web サイトには、ハードウェアの既知の問題や、トラブルシューティングに関するさまざまなドキュメンテーションのリストがあります。

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

## 関連資料

スイッチの設置またはアップグレードを実施する前に、スイッチのリリース ノートを参照してください。

- Catalyst 3650 スwitch のマニュアル  
[http://www.cisco.com/go/cat3650\\_docs](http://www.cisco.com/go/cat3650_docs)
  - Cisco SFP および SFP+ トランシーバ モジュールのマニュアル (互換性マトリクスを含む)  
[http://www.cisco.com/en/US/products/hw/modules/ps5455/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/hw/modules/ps5455/tsd_products_support_series_home.html)
  - エラー メッセージ デコーダ  
<https://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Errordecoder/index.cgi>
-

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>